ハンドマイク街頭演説原稿例　自民党総裁選　裏金問題だんまり

二〇二四年九月十三日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、マスコミで大々的に報道されている通り、自民党の総裁選挙が正式に始まりました。これまでで最も多い９人が立候補されたとのことです。候補者のみなさんはご自身の政策などをいろいろと訴えておられますが、それらを見ていて大変気になる、そして見過ごせない問題があります。それは、岸田総理を退陣に追い込むほど国民の怒りがわきあがった裏金問題について、どなたも真相究明すると言っていないことです。

　裏金問題をめぐっては、日本ジャーナリスト会議がすぐれた報道を表彰するＪＣＪ大賞に、「しんぶん赤旗」日曜版の一連の裏金問題報道が選ばれました。それだけの大事件であり、犯罪の疑いもある問題です。自民党総裁選の候補者のみなさんが、だれも裏金問題の真相究明を公約にあげず、口にさえしないということは、裏金問題をだれも重く見ていない、犯罪の疑いがあることさえ認識していないことを示しているのではないでしょうか。

　政治改革をうたう候補者はいらっしゃいます。とはいえ、裏金問題の真相究明、そしてその根っこにある企業や業界団体からの献金を全面的に禁止することにまでいかなければ、真の政治改革にならないのではないでしょうか。また、総裁選挙に勝つために裏金議員の票がほしいから口をつぐんでいるのだ、と言われても仕方ないのではないでしょうか。

　さてみなさん、自民党総裁選挙の候補者のみなさんはいろいろな公約を掲げており、中には私たちも賛同できるものもあります。その一方で裏金問題にはみんなでだんまり。日本を戦争する国につくりかえる憲法９条改定や、財界・大企業に都合のよい労働者の解雇規制の緩和を大きく打ち出す候補もいらっしゃいます。全体的に見たら、今までの自民党政治と同じ政治を続ける、その舵取りを誰がするのかを決める総裁選挙になっているのではないでしょうか。これでは、どなたが総裁に当選し次の総理大臣に選ばれても、政治の中身は変わらないと言わざるを得ません。

　みなさん、今するべきことは、財界・大企業とアメリカの顔色ばかりを見て、国民の姿を見ない自民党政治を根本から変えることではないでしょうか。日本共産党はこれまでも経済、外交、気候危機やジェンダー平等など、さまざまな分野や課題についての提案をしてきました。日本共産党のホームページなどで公開していますので、ぜひご覧ください。そして日本の政治をおおもとから変えて新しい政治を実現するためにも、来るべき衆議院総選挙で日本共産党を大きく伸ばしていただきますよう、ご支持、ご支援をよろしくお願いいたします。

　日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をこの機会にぜひお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）